



北部医療センターだより

HIROSHIMA CITY NORTH MEDICAL CENTER ASA CITIZENS HOSPITAL

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院

〒731-0293 広島市安佐北区亀山南1-2-1 Tel 082-815-5211(代表) <https://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp/>

広島市立北部医療センター祭り2022を開催しました!!

10月15日(土)に当院で「広島市立北部医療センター祭り2022」を開催しました。

当日は天気にも恵まれ、週末の土曜日にも関わらず想定を大幅に超えた多くの方にご来場していただき、無事開催することができました。まずはご来場いただいた方々に感謝申し上げます。

当院は旧安佐市民病院から2022年5月1日に現在の地に高度急性期医療を担う「広島市立北部医療センター安佐市民病院」として新たに開院しましたが、地域に根ざした医療の提供というミッションは現在も変わりません。

開院した当初からできるだけ早い時期に新病院のお披露目を兼ねて地域の方々と一体となった催し物を企画したいと考えていました。新型コロナの感染状況を勘案し、10月頃がベストではないかという根拠の薄い予想でしたが結果的には良い時期に開催できたのではないかと思っています。

お祭りを開催するにあたり地域の方々からの惜しみないご協力をいただきました。前夜の盛大なシーカレット花火、当日の素晴らしい企画運営など大変なご尽力をいただきました。また、当日のお祭りにご参加いただきました地域の皆さまは38団体にのぼり、会場はご来場の方々と一体となって大変な賑わいとなりました。舞台を準備した講堂では、さまざまな催し物が企画されましたが、常に立ち見状態で大盛況でした。ご協力いただきました地域の皆様方にこの場をお借りして深く御礼を申し上げます。

お祭りを開催するにあたり数多くの医療機関から協賛をいただきました。このような盛大なお祭りが開催できたのも、ひとえに協賛いただきました皆さまからのご支援の賜物であり、この場をお借りして深謝申し上げます。

開院して約半年が経過ましたが、ようやく可部の街に「広島市立北部医療センター安佐市民病院」をデビューさせていただいたような気がしています。

これからも地域の方々に愛されるような病院作りができれば、と考えています。

広島市立北部医療センターまつり2022実行委員長 三田 耕司



\さすがです！

広島市立北部医療センター祭り2022について

令和4年5月に新病院に移転し6ヶ月が経過した10月15日(土)に、「広島市立北部医療センター祭り2022」を開催することができました。当日は天候にも恵まれ、地域の皆さんへ新病院のお披露目をすることができました。

病院発信のイベントとして、市民公開講座や院内ツアー、育児相談・ベビーマッサージ、健康相談、PPE着脱体験、外科医体験セミナー、内視鏡体験、肝臓病コーナー、糖尿病コーナーなどの健康相談、新しい手術室の見学、骨密度や心身機能簡単チェックなどが開催され、どれも大盛況でした。

地域の皆さんからも、多くのイベントや出店をしていただき、亀山周辺地域だけでなく、可部線を使用して来院いただいた方も多く見受けられました。

センター祭りを通して感じたことは、地域の皆さんが新しい北部医療センター安佐市民病院に大きな興味と期待を持ってくださっているということです。久しぶりに老若男女とわざ多くの皆さんのが笑顔に接することができたことも、とても感慨深いものとなりました。

また、準備から当日の運営・後片付けなど、地域住民の皆さんをはじめ、当院職員の協力体制など、「さすが！」 地域の皆さん「さすが！」 北部医療センター安佐市民病院」と感じることができた一日でもありました。

北部医療センター安佐市民病院は開設したばかりですが、今後も地域の皆さんと一体となりこのセンター祭りを継続していくたいと思います。また、亀山地区、可部地区、安佐北区、安佐南区、更には広島県北西部の医療の要としてだけでなく、地域の皆さんとの繋がりを大切にした病院造りをおこなってまいりたいと思います。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



北部医療センター安佐市民病院 看護部 副看護部長 野村 弘美

► ダヴィンチ1000件

\安全に！迅速に！/

私は消化器外科でも、上部消化管、主に胃がんを担当しております。ダヴィンチを使用したロボット支援腹腔鏡下胃がん手術（ロボット胃がん手術）を得意としております。ロボット支援手術は、小さい傷で手術を行う腹腔鏡手術の進化版で、複数の小さなポート（穴）から入れて手術操作を行う鉗子を、ロボットアームでより細かく操作する手術方法です。

当院の消化器外科のダヴィンチ導入は胃がんが最初でした。2018年4月に消化器がんへのダヴィンチ使用が保険適応となり、手術見学・ロボット手術の術者資格取得など準備を行い、同年10月ロボット胃がん手術を導入しました。正直などところ、腹腔鏡で安全に行えている胃がん手術になぜロボットを使用する必要があるのか、導入前には理解しきれていませんでした。しかし実際にロボット手術を行うと、その能力に完全に魅了されました。プレーンな奥行きのある3Dの強拡大視野、人の手を超えた自由度の高い鉗子、手ぶれ補正など多くのロボット手術の特徴に感動しました。この細やかで丁寧な手術なら術後合併症をなくし、患者さんの体への負担を減らすことが出来ると確信しました。

当時、当院でのロボット胃がん手術導入について、安佐医学会で発表させて頂きました。会場の先生方にロボット手術の有益性が伝わり、「もっと適応を広げ進行癌にもどんどん使用した方が良いのでは？」とのご意見も頂きました。当時は腹腔鏡手術も早期胃がんのみを対象としていたため、ロボット胃がん手術も早期胃がんを対象としておりました。「新しい手術手技のため慎重に症例を重ねさせて下さい」とお答えしたものの、ロボット手術の素晴らしいことが会場の皆様に伝わり非常に嬉しかった事を覚えております。

その後、進行胃がんに対する腹腔鏡手術が開腹手術と同等であることが証明され、ロボット胃がん手術の適応も拡大しております。事実、当院のロボット胃がん手術数は年々増加し、現在まで86例にロボット手術を行いました（県内最多）。本年5月には新病院に移転し、ダヴィンチは2台に増設、ロボット胃がん手術術者も2名在籍。当科受診からお待たせすることなく安全に迅速に手術を行えるようになりました。

病気にはならない方が良いのですが、万一胃がんと診断された際には当院へご相談頂ければと思います。全力で、迅速に、安全に、確実な低侵襲手術を提供させていただきます。

消化器外科 主任部長 德本 憲昭



► 脾臓でロボット手術

\ 皆様に感謝！ /

「東京に脾臓のロボット手術の勉強に行ってくるよ」「といってらっしゃい」遡ること2年前、麗かな春の日差しの下、まだちぎれた鱗雲のようにしか色付いていない川沿いの桜木を眺めながら交わした言葉は、これだけでした。

2020年4月、ロボット支援下脾切除術が保険収載となったが、この時点で広島にこの手術の技術を習得し指導できる医師はいませんでした。東京医科大学消化器外科（永川裕一主任教授）は年間約150件の脾切除を行い、その半数で腹腔鏡またはロボット支援下の低侵襲手術を行っています。ロボット支援下脾切除手術件数では日本で屈指のこの施設の門戸を叩き、2020年4月から私のその技術習得への道が始まりました。

ロボット支援下手術・腹腔鏡下手術はあらゆる分野の手術で普及しているが、内視鏡下の手術野で特殊な器具を用いて行う手術であり、高度な技術が要求されます。内視鏡外科を安全に遂行するため日本内視鏡外科学会は内視鏡外科学技術認定医制度を設け、その認定医取得には高い手術技術基準を要求しています。開腹手術においても高難度とされる脾臓手術である。私は、日本内視鏡外科学会の定めるこの脾臓内視鏡外科学技術認定医取得はロボット支援下脾切除を行う医師として必要不可欠だと考えました。しかし、この脾臓内視鏡外科学技術認定医は全国で50人。同じく大腸領域では1000人、胃領域は700人である。認定医数は患者数と比例する訳だが、脾臓領域の人数の少なさには目を見張られた。

「安佐市民病院には、ダヴィンチ（内視鏡手術支援ロボット）が2台ある。」2年の修練を終え、広島に戻り、自分に与えられたことは、脾臓領域の低侵襲手術を広島のみんなに安全に提供すること。今現在、脾臓外科は大きく変化つつあります。脾切除術が大きな手術であることには変わりないが、より低侵襲に、より安全に広島のみんなに提供できる病院があります。

「脾臓内視鏡外科学技術認定医に合格したよ」「おめでとう」

最後に。広島で安全に脾臓低侵襲手術が行えるよう技術を提供、指導いただいた先生に感謝。広島で脾臓低侵襲手術を提供できる病院があることに感謝。単身で東京に修練に渡った2年間、何も言わず支えてくれた人に感謝。脾臓癌だけでなく、比較的若年に発症する脾腫瘍に対しても、ロボット支援下脾切除は適応となります。小さな傷で、より安全で、より低侵襲な脾切除を、広島の皆様に。

肝胆脾外科 部長 中川 直哉



初期臨床研修医のご紹介

2004年度から新臨床研修医制度が必修化され、18年が経ちました。今年度は新臨床研修医制度19回生となる初期臨床研修医9名が当院に赴任し、広島大学病院からたすきがけ研修で赴任した2年目研修医1名と歯科研修医1名を併せると19名の若者が当院の初期臨床研修医として皆様の診療にあたっております。いずれも元気で明るい若者ばかりです。

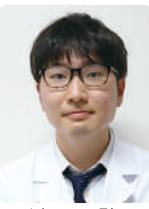
これまでに120名が当院で初期臨床研修を行いましたが、全員が初期臨床研修を修了し、30名が3年目も当院の専攻医として残留致しました。96名が広島大学医局に入局し、102名が3年目も広島県内に留まって専門診療とともに初期臨床研修で培った総合診療能力を発揮してくれています。

3年目以後の専門診療科は内科が57名、外科17名、麻酔科10名、産婦人科9名、小児科5名のほか、心臓血管外科6名、脳神経外科2名、整形外科5名、泌尿器科2名、耳鼻咽喉科2名、放射線科4名、リハビリテーション科1名と様々な診療科に進み、専門診療で活躍しています。

安佐市民病院ではこれから医療を支える多くの明るく優秀な若い医師たちが皆様の診療にあたっております。どうぞよろしくお願ひ致します。

診療統括部診療統括部長補佐(内科担当)

教育研修管理センター長、臨床研修プログラム責任者 加藤 雅也



池田 駿

「はやお」ではなく「しゅん」です。

4月から安佐市民病院で研修させていただいている池田駿と申します。ちなみに下の名前の呼び方は「はやお」ではなく「しゅん」です。よく間違えられます。地域の皆様に貢献できるよう一生懸命努めてまいりますのでよろしくお願ひいたします。



青木 亮平

より良い医療をみなさまに。

4月より広島市立北部医療センター安佐市民病院で研修させていただいております、名古屋大学出身の青木亮平と申します。これから少しでも地域の皆様に良い医療が提供できるよう精進してまいりますのでご指導よろしくお願ひいたします。



下山 祐一郎

少しだけ早く病院の力に。

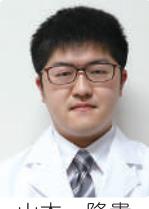
4月より安佐市民病院で研修させていただいております、川崎医科大学出身の下山祐一郎と申します。至らないことばかりだと思いますが、少しでも早く病院の力になれますよう精進致しますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。



三浦 功大朗

誠実に励んでまいります。

今年度より当院で研修させていただいております、広島大学出身の三浦功大朗と申します。未熟な点も多いですが、誠実に業務に励んで参りたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



山本 隆貴

何事も一生懸命に。

この春から安佐市民病院で研修させていただいています、山本隆貴と申します。至らぬ点ばかりですが、一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



梶川 温子

日々精進していきます。

4月より安佐市民病院で研修させていただいております。山口大学出身の梶川温子と申します。至らないところばかりですが、皆さまのお力になれるよう日々精進していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



津野 華

ご指導宜しくお願い致します。

4月より安佐市民病院で研修させていただいております、香川大学出身の津野華と申します。至らない点も多いと思いますが、精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



橋本 桃佳

毎日が充実しています。

初期研修医1年目、大分大学出身の橋本桃佳と申します。素敵な先生方にご指導いただき、おかげさまで充実した研修生活を送らせていただいております。まだ未熟ですが精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ致します。



原田 和美

地元の医療に貢献します。

初期研修医1年目の原田和美と申します。学生時代は県外で過ごしましたが、就職を機に出身地の広島に戻ってきました。地元の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



日野 咲季子

一日でも早く皆様のお力に。

4月より当院で研修をさせていただいております、徳島大学出身の日野咲季子と申します。至らぬ点が多く迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、一日も早く皆様のお力になれますよう精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



松井 百合花

日々誠実に取り組みます。

広島大学から参りました、歯科研修医の松井百合花と申します。至らぬ点も多く迷惑をおかけすることがあると思いますが、日々誠実に診療に取り組んで参りたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

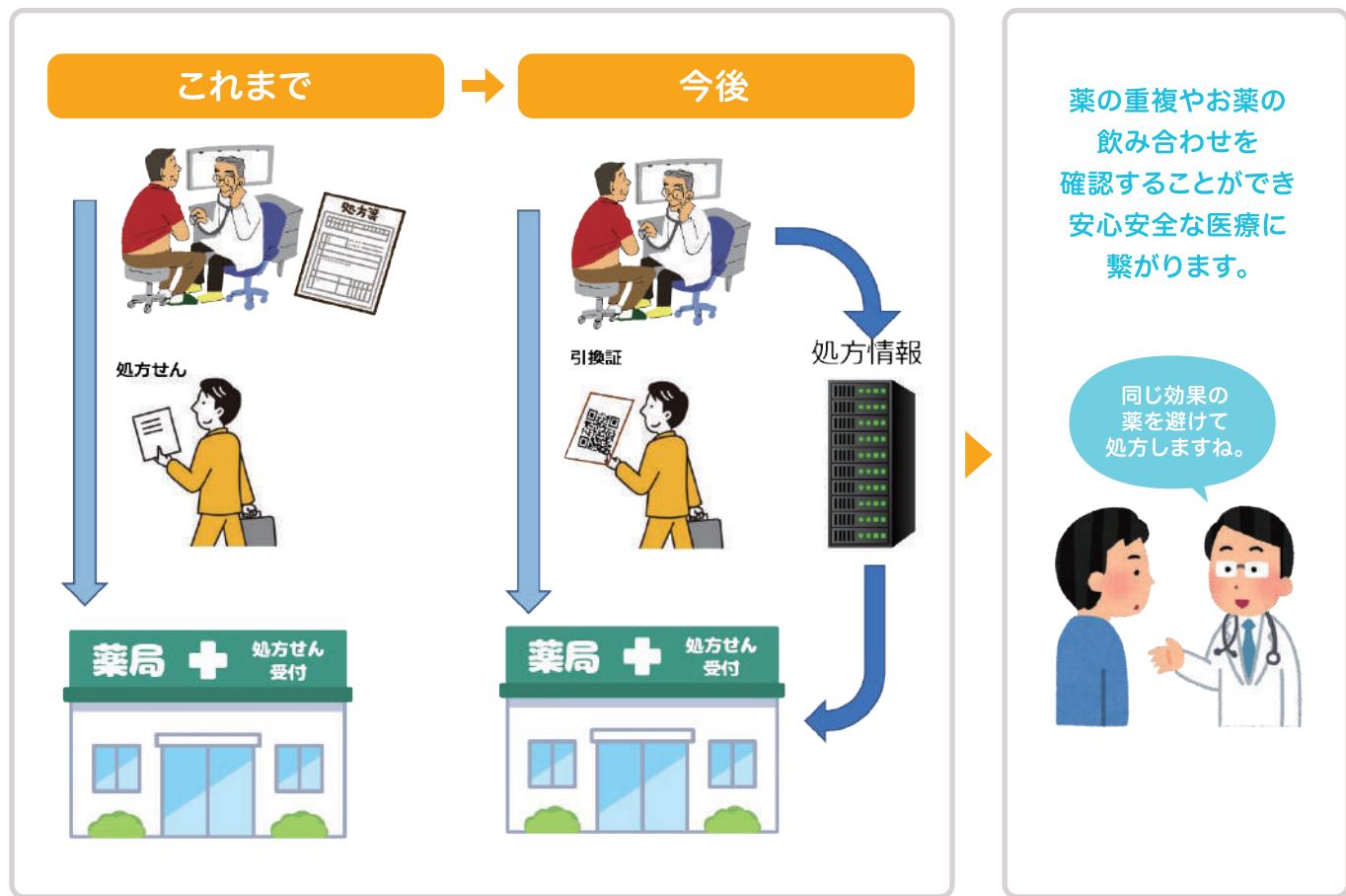
電子処方せん

安全で効率的な
医療を

現在病院やクリニックを受診してお薬が処方される際は、患者さんは医師の印鑑や直筆サインが記入された「処方せん」を持って、調剤薬局に行きます。その後薬局の薬剤師は「処方せん」や「お薬手帳」を確認して、お薬を準備し説明する流れです。今の流れでは効果が同じ薬が出ていないか、あるいは飲み合わせが良くない薬を見つけることができるるのは、薬局に行った後です。このたび全国に先駆けて安佐地域に先行導入される「電子処方せん」は、医師が処方せんを出そうとする際に、薬の重複や飲み合わせの確認アラートを出し、安全で効率的な医療を提供する仕組みです。



薬剤部 宮森 伸一



図でお示しするように電子処方になると、医師からの処方は国のデータベースに送信されます。この時に過去の薬の履歴を確認し重複チェックがされます。調剤薬局は患者さんが持参される引換証を受け取り、薬を準備するとともに調剤結果をデータベースに送信します。

電子処方せんの仕組みを最大限生かすには、マイナンバーカードを保険証利用していただく必要があります。また開始される当初は病院も薬局も一律に設備が準備できていないため、準備が整った施設からの順次開始となります。普段かかりつけクリニック、病院と薬局双方が準備できないと開始できないのが欠点です。このため安佐地域での患者さんへのご案内は、準備ができたかかりつけ薬局から説明を受けたのちに病院に申し出ていただく予定です。

今後の動向によっては、現在患者さんが持参する処方せんがスマートフォンアプリで対応可能となり、医療情報のペーパーレス・共有化やオンライン診療・オンラインお薬指導に代わっていくことも予想されます。繰り返し申し上げますが、仕組みの導入は医療機関によって時期が違いますので、皆様のご理解のほどよろしくお願ひいたします。

PICK UP!

公式YouTubeチャンネル

最新の技術紹介やWEB講演会などの医療従事者向けの動画だけでなく、施設紹介や検査の流れなど当院を受診される患者様や受診を検討されている患者さんの役に立つような動画を発信しています。



PICK UP!

LINE公式アカウント

医療従事者向けのアカウントではWEB講演会や各種研修会のお知らせを配信します。患者さん・ご家族向けのアカウントでは施設紹介や休日などのお知らせを配信します。

